

会議記録書	
会議名	第29回草津市図書館協議会（委員発言・質問、事務局事業説明・回答要旨）
日時	令和2年8月24日(月) 14:00～15:50
場所	草津市立図書館 3階 大会議室
出席者	岸本委員長、高山副委員長、高井委員、江竜委員、内田委員、山本委員、柳澤委員、 武井委員、中瀬委員 事務局（武村図書館長、二井副館長、川端副館長、齋藤）
傍聴者数	1名
記録作成者	図書館 齋藤

1. 開会挨拶（武村図書館長）

- ・本日は今年度1回目の会議となります。新たに3人の方が委員に御就任いただきました。前委員の残任期間である来年の8月末までよろしくお願いします。
- ・新型コロナウイルスについて、県内で草津は二番目に感染者数が多い状況を鑑み、本市図書館でも多くの利用制限を設けており、来館者の健康を守るためとはいえ、心苦しく感じております。

2. 自己紹介

～ 出席者各自、自己紹介 ～

3. 議題

(1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

資料1

●本市図書館の対策とその経過報告

- ・図書館は不特定多数が利用し、来館することが不要不急の外出につながるため、感染リスクが高い施設であるという判断のもと、4月13日に行われた市の新型コロナウイルス感染症対策本部会議により4月14日から5月19日まで臨時休館となった。
- ・臨時休館中、職員は電話での利用者対応（予約、レファレンス、問い合わせ等）や資料の整理、館内の感染症対策を行いながら、開館再開に備えた。
- ・開館に向けた準備として、予約本の受け取りだけを5月14日から実施した。
それぞれ別の場所に設定した受付場所と受け渡し場所の間を利用者に移動してもらう「ドライブスルー」ならぬ「ヒューマンスルー」方式で密が発生しないよう工夫した。
- ・5月20日から31日は大きく制限を設けながらの開館となった。
6月1日からは一部制限を残しつつ、感染症対策を講じながら、通常時に近い形で開館している。
- ・南館でもおおむね本館と同様の対策を講じ、館内の密を防いだ。特に、市民交流プラザが臨時休業中は、ロビー部分を有効的に活用させていただきながら、本館と比較して利用できるスペースが少ない点を補った。

- ・主催事業については11月3日（火・祝）の開催を予定していた「くさつ図書館まつり」をはじめ、中止の状態が続いており、再開時期は未定となっているが、集客を行わない形での代替企画を実施している。

●今後の課題

①情報発信の提供方法

ホームページ以外での情報発信の方法を検討する必要がある。

②在宅時間の充実が注目されることで高まった図書館のニーズへの対応

これまでのサービスはもちろん「新しい生活様式」に合わせた図書館の機能充実が求められている。

③館内の衛生環境整備

図書消毒機の利用がコロナ禍で倍増したことから分かるように、衛生面の整備や、館内の環境整備を求める意識が利用者に広まっている。

●委員意見

- ・コロナ禍において、読み聞かせを動画配信するには、著作権的な課題がある。著作権フリーの素材が図書館にあれば広がりがあるのでは。

出版されている作品以外にも、オリジナルの作品を募集するような企画を開催し、応募作品は気軽に使うことのできる素材のようにできれば面白い取組みになるのではないかと思う。

⇒著作権については公衆送信権に関わるため、必ず出版社・著者の許可が必要となるが、コロナ禍の期間に限り動一部の作品に対して許可が降りた例もある。

また、実際に、このコロナ禍において地域で作った紙芝居を使って動画配信で読み聞かせを行った図書館があった。今後、そういった地域の資料の発掘にもつながっていくだろう。（事務局）

- ・臨時休館以降、色々と対策を講じているだろうと思っても、図書館から足が遠のいてしまっていた。イベントの中止で楽しみが無くなっていた子どもたちにとって、代替企画があるのはいいと思う。また、図書館まつりなどは来年や再来年にまた開催できると想定して、引継ぎは続けてほしい。

- ・日常的に図書館を利用している人や、図書館に行く意思のある人しかホームページを見ないと思うので、メールアドレスの登録者にメールマガジンのような感じで一斉送信して緊急時の情報発信につながれないか。

⇒メールアドレスは、資料の予約・返却に関することなどインターネットサービスを利用するために登録いただいているが、それ以外の活用については今後検討していきたい。課題にも挙げたように、インターネットに触れない層への情報の発信方法も併せて検討していきたい。（事務局）

- ・普段は利用可能な資料については予約できないが、臨時休館中は予約させてほしかった。

⇒予約について、貸出可能状態の資料は、システム上WEBからの予約ができないが、臨時休館中は電話でのみ貸出可能状態の本の予約を受け付けていた。ホームページに記載はしていたが、分かりやすい情報発信を心掛けていきたい。（事務局）

- ・平常時の貸出可能な資料の予約（在架予約）は、閉館時間中に一気に予約が入り、開館前にそれを準備するだけでかなりの労力がかかる。その上、取り置き期間が発生するので資料の循環が滞る。そのため、ほとんどの図書館は在架予約を実施していないのが実情であろう。
- ・学校が休校となっていた間、図書館も休館になって子どもたちも保護者も残念がっていた。家に居ないといけない期間に、子どもたちは本に飢えていたと感じた。
- ・情報発信について、学校の緊急メールはほぼ100%の保護者が登録をしている。それを利用し、教育委員会を通じて図書館についての情報を発信することは可能ではないかと思う。
- ・今後、日本において電子書籍の普及が進んで、図書館でも利用が可能となれば、このような緊急時に来館せず対応するサービスの有り方が見えてくるのではないか。
- ・子どもたちの読書環境については今のピンチをチャンスに変えることができている。図書館でのさまざまな対策に感心したので、学校図書館の運営の参考にしていきたい。
- ・市民の不安感が高い。ホームページにおいて、感染症対策の特設ページを作成し、写真など目に見える形で、感染症対策について広く知ってもらおうといいのではないか。
- ・図書消毒機において、紫外線の照射で全てのページを完全に消毒する、新型コロナウイルスを完全に消し去ると誤解をしている方がいるのではないかと心配している。
- ・コロナ禍において読書の大切さをあらためて感じていた。知らなかった本との出会いが臨時休館で失われ、図書館の重要性も改めて感じたので、対策を講じて「何とかしよう」という気持ちで動いてくださったことが伝わりありがたい。どのような状況でもできることを探すという点で自身の活動にも参考にしたい。
- ・宅老所も居場所として開放しているが、狭い場所しかなく、催しを中止せざるをえない状況で、子どもも高齢者もストレスを感じている。
特に高齢者は、外に出る機会が減ると運動量が減り、頭を動かすことも少なくなるので、このコロナ禍をきっかけに高齢者の方向けにも非来館型のサービスがないか考えたい。
また、子ども食堂においては、図書館からの貸出事業でつながった連携を更にうまく活用することを考えていきたい。
- ・草津市の図書館の感染拡大防止対策に関しては丁寧を感じるが、感染者が発生する前提で物事を想定しておかないといけないだろう。
- ・大学でも消毒と非接触の体温測定、フェイスシールドとマスクの着用、人数制限を徹底している。それでも、必ず感染者はいるという前提で動いている。感染者が発生したときに冷静に行動できるような想定を行ってほしい。図書館で館内にどれだけ気を配っても、来館するまでの経路に感染リスクの高いところがあれば注意が必要。体温測定などを検討するのはどうか。

- ・重症化する年齢層は高齢者と言われている一方、若年層は無症状が多いため、感染拡大させてしまう傾向にある。図書館はいろいろな世代が出入りする施設なので、今は若年層と高齢者が接触しないような工夫ができないだろうか。
- ・今は定期的に窓をあけて換気されているが、今後、自動的に換気ができる空調設備が公共施設でも必要となってくるのではないか。

(2)図書館利用者アンケートについて 資料2

●アンケートについての概要

- ・市内図書館の来館者にアンケートを配布し、今後よりよい図書館運営を実現するために利用実態や、改善点を把握することを目的とする。
- ・本館では令和2年2月1日から2月14日、南館では2月8日から2月21日にアンケート配布を行った。配布枚数2267枚、回収率は59.0%であった。小学生以下はアンケート配布対象外。60代、70代からの回答が多かった。

●アンケート結果について

- ・回答者の約半数が月1～2回の来館頻度であった。貸出期間が3週間であることが影響していると考えられる。
- ・本館と南館では立地の違いにより来館方法に差が見られた。
- ・来館の目的は資料の貸出・返却が約7割であった。
- ・レファレンスサービス、YAサービス、乳幼児・児童向けサービス、高齢者向けサービス、多文化サービス、自動貸出機の認知度、満足度について、それぞれ認知度は低かった。年代別に見ると、主なターゲット層には他の世代に比べると若干認知度は上がるが、それでも十分に認知されているとは言えない結果であった。
- ・ただし、サービスを利用した方の満足度は概ね高い結果であった。
- ・その他図書館のサービスについて、職員の対応、貸出冊数・貸出期間、開館時間・休館日については、満足度が高く、視聴覚資料の収集・貸出、検索方法、雑誌の収集・貸出については満足度が低いという結果になった。
- ・これらの傾向が草津市だけなのか、他市の図書館にも言えるのか比較して分析を進めていきたい。

●自由意見について

- ・アンケートでは自由に意見を記入していただく欄も設けた。
資料に関して（蔵書量、汚い、古いなど）への意見が最も多く、次いで、予約についてや、館内スペースについての要望が多かった。
- ・いただいた意見については回答をまとめて公開する予定である

●今後の課題について

- ・来館者のみへのアンケートとなっているので、来館しない方の意見を聞くにはどうすればよいか検討していきたい。
- ・アンケート結果をどのように活かしていくか、分析を深めながら検討していきたい。

●委員意見

- ・要望を書いた人は、期待しているはずである。できないことはできないので仕方がないが、回答を公開するにあたって、なぜ無理なのか理由を知ることができれば納得できるのではないかと思う。
草津の図書館のルールはこうで、考え方はこうで、という説明があると理解しやすいかもしれない。
- ・自由意見への回答の公開は図書館側の考え方を利用者に開示する、知ってもらえるチャンスである。
納得はできないことでも、きちんと「答えを返してくれたな」というだけで印象が違う。
- ・YAサービスの認知度が低いのはなぜか考えると「YA(ヤングアダルト)」と聞いても何かイメージできないことにあるのではないか。
アンケートの裏の用語解説以外にも YA コーナーにここはどんなコーナーか掲示するなどの工夫もあったほうがいいのではないか。
- ・図書館用語は一般的に分からないことも多いので、館内やホームページでもアンケート裏の用語解説のようなもの載せてほしい。
- ・サービスの認知度調査について、言葉を知らないのか、意味も知らないのかがこの聞き方だと分からない。言葉を知らないだけで実際は該当するサービスを利用していた人もいるだろう。
- ・各種サービスのメインターゲット層に内容を知ってもらって利用してもらうことが大切。年代ごと反応をとらえるのは良いと思う。
- ・図書館の利用目的についての結果をみると、図書館の3つの機能のうち調査研究やレクリエーション目的としている人が少ないのかなと感じた。
コロナ禍の中大きなイベントを行うことは難しいかもしれないが、レクリエーション企画の中でレファレンスサービスの使い方や、資料検索の仕方、各種サービスの紹介を知ってもらうことにつなげるのはどうか。

●事務局より

- ・本日いただいた御意見について検討し、追記・修正を行い、改めて委員の皆様に御確認いただく。

(3)その他

●各種計画について

- ・昨年度、第三期草津市教育振興基本計画の策定に合わせ、第三次草津市子ども読書活動推進計画、草津市図書館運営計画（後期）の見直しを行った。その中での図書館の位置づけと取り組むべき内容を再度確認し、3つの計画が三位一体となって今年度から五年間進めて参りたい。

●雑誌スポンサー制度について

- ・雑誌のスポンサーが年々減少している。下半期からのスポンサー募集をPRしていく。

●くさつ図書館まつりの中止について

- ・11月3日（火・祝）は読書週間にちなんで特別開館日とする。
イベント代替企画ができればと考えている。晴れていれば野外で実施する計画。
具体的なことが決まれば、ホームページや広報物でお知らせしたい。

(15:50終了)